



発電に使用するセコノブの燃料

セコノブ鶏糞で発電

東洋システム

富士電機システムズと提携

プランニング提案を開始

システム鶏舎を活用した新しい鶏糞処理方式に取り組んでいる東洋システム(株)(安田勝彦社長)本社・岐阜県各務原市金

属団地九七(四)は、九年前からは鶏舎排気に含まれる廃熱を利用して、鶏糞の水分を年間平均二〇%以下にするドライチ

ンバーに、三年前からはメンテナンスがシンプルで、手間がかからないハイテムセコノブ糞乾システムに取り組んでいる。

水分二〇%以下の鶏糞は、乾物ベースで石炭の約半分のカロリーがあることから同社では、ハイテムセコノブ糞乾システムからの鶏糞を、セコノブ燃料として発電に活用する方法の調査研究を続けていた。富士電機システムズが、セコノブ燃料を使用した実証機による

三年間の検証運転に基づいて、実用機販売の検討段階に入ったのを機に、同社は富士電機システムズと実用機販売について提携することで基本的な

合意に達した。これに基づき同社では、設備更新計画のある農場に対し、長期的視野に立った選択肢の一つとして、セコノブ燃料発電を折り込んだ設備更新プランニング提案を開始することになった。同システムの骨子は次の通り。

- ▼発電出力一九十(ネット七十五)キロワット。
 - ▼運転性能一十五日間無人運転、二日間停止エンジンクリーニング。
 - ▼設置スペース(概寸)一十二メートル×十メートル。
 - ▼現時点予定価格一八千円。
 - ▼オプション一発電余熱回収、遠隔監視。
- 同システムの実用的メリットについて同社は、①ガスがエンジン内で一〇〇〇度C以上になるため、臭いの問題がなく、
- 周辺への環境対策になる
②鶏糞処理に要するスペースがクリーンで、しかも小さくて済む③人手がかからない一などと説明している。
- なお、同システムを導入時に交付される可能性のある補助金としては、農林水産省では「バイオマスの環つくり交付金」(平成十八年度予算枠百三十七億円)、経済産業省では「新エネルギー事業者支援対策事業」(予算枠三百五十三億円)などがある。